

第24回議会運営委員会会議記録

開 閉 会 日 時	令和4年1月17日（月曜） 午前 9時30分 開会		
	休 憩		
	午前10時24分 閉会		
会議場所			
出席委員 氏 名	委員長 中村 和宏	委 員 渡辺洋一郎	
	副委員長 正村紀美子	委 員 黒田 栄継	
	委 員 鈴木 健充	委 員 常通 直人	
	委 員 中田智恵子		議 長 早 苗 豊
欠席委員 氏 名			
説明等に 出席した 者の氏名			
事務局職員	事務局長 安田 敦史	総務係長 佐藤 史彦	主査 上田 瑞紀

『会議に付した事件と会議結果など』

1 開 会

- ・委員長が開会を告げ、事務局から本日の委員会の日程を説明する。

2 議 件

(1) 調査事項

- ア 芽室高校との意見交換会実施結果について 資料1
- イ 白樺高校との包括連携協定事業（1学年）実施要領について
資料2
- ウ 議員の定数と報酬のあり方について 資料3
- エ 第2回モニター会議開催要領について 当日資料4

3 その他

- (1) 次回委員会の開催日程（予定）について
- (2) その他

2 議 件

- ア 芽室高校との意見交換会実施結果について 当日資料1
 - ・常通委員：去る12月23日に開催した意見交換会「若い世代が読みたくなる『議会だより』へ」について、「良いところ」「問題点」「改善策」として整理した資料の説明。この内容を議運で共有し、全員協議会で共通認識を図り、2月号以降の議会だよりについて、編集企画会議で反映の可否を検討しながら取り扱っていく旨の説明。
 - ・委員長：意見・質疑はないか？
 - ・正村副委員長：意見交換会の結果を2月号から反映していくことについて賛成す

る。なお、今年度から議会だよりの編集体制等を刷新したため、1年を一つの単位として検証する中で、今回の意見交換会の結果を「議会広報編集発行要領」などに反映することも視野に入れるべきと考える。併せて、芽室高校との意見交換会のあり方について、議運として早い時期から次年度に向けて議論すべきと考える。

- ・委員長：他にないか？
- ・(意見・質疑なし)
- ・委員長：説明内容については、次回の全員協議会（1月20日）で情報共有し、2月号以降の編集にあたり、編集企画会議に委ねて紙面へ反映していくことを議運の決定事項とする。

イ 白樺高校との包括連携協定事業（1学年）実施要領について 資料2

- ・常通委員：資料説明（前回議運開催時における未整理事項について説明。「事前学習3日間の日程及び担当議員」及び「事前学習の資料」の説明。）。
- ・委員長：意見・質疑はないか？
- ・鈴木委員：総務経済常任委員会は、委員の事業への参加方法について、4人ずつ2つの日程（2月1日、3日）に分担することとした。委員長が両日程出席。他の委員はどちらかを担当する。
- ・渡辺委員：厚生文教常任委員会は21日の委員会の際に整理したい。
- ・(意見・質疑なし)
- ・委員長：説明内容については、次回の全員協議会（1月20日）で情報共有し、実施する。

ウ 議員の定数と報酬のあり方について 資料4

- ・事務局長：資料説明＜議会内情報共有事項として、次回の全員協議会に諮る内容を説明。前回（1月13日開催）議運の資料に平成26年11月の答申書を加え、モニター会議での質疑に対応する資料とする旨及び議会フォーラムは開催しない旨の説明＞。
- ・委員長：意見・質疑はないか？
- ・委員長：他にないか？
- ・(意見・質疑なし)
- ・委員長：説明内容については、次回の全員協議会（1月20日）で情報共有し、第2回モニター会議に臨むこととする。

オ 第2回モニター会議開催要領について 資料5

- ・鈴木委員：資料説明（モニターの出欠確定によるグループディスカッション編成案。議員とモニター別会議参加手法。タイムスケジュールによる会議室移動の動き等の説明）。
- ・委員長：意見・質疑はないか？
- ・(意見・質疑なし)
- ・委員長：説明内容については、次回の全員協議会（1月20日）で情報共有し、第2

回モニター会議に臨むこととする。

3 その他

(1) 次回の委員会開催日程について

正副一任

(2) その他

- ・委員長：その他で、委員から案件はあるか？
- ・鈴木委員：総務経済常任委員会ミーティングで出された意見を共有する。議会活動の対応について、今般の新たな新型コロナウイルス感染拡大を踏まえて、今後を見据えた基本的考え方を、改めて議運として検討すべきとの意見があったので共有する。ひとつの案としては、国や道の方針に委ねることに固執せず、芽室町議会としての姿勢を独自に確立することも選択肢でないかとの意見があった。
- ・常通委員：意見の趣旨は理解できる。その上で議会としての共通見解としては、去る1月7日の災害対策会議の結論とすべきと捉える。また、本町議会独自の対応指針の整理も一つの考え方としては理解するものの、あくまでも、国や道の確たる措置や宣言に基づき、本町議会のBCPを適合させて行動指針を確定していくことが、客観的な説得性の担保もでき得策と考える。
- ・正村副委員長：私も同感である。なお、議会活動に臨む姿勢は、議員の自己判断や自己責任による要素も不可欠なことから、感染症予防等に努める手法は、議会としての決め事と議員個々の判断の双方を尊重して行動すべきと捉える。
- ・黒田委員：視点を少し変えた意見をする。(総務経済常任委員会が出された意見は)BCP自体を改正すべきという趣旨ではなかったのか？
- ・鈴木委員：BCP自体の改正までを求める意見ではなかったと感じている。会議のあり方についての問題提起として捉えている。
- ・委員長：この場では、委員会からの問題提起に係る議運内部での意見交換及び確認という位置付けで整理したいが異議ないか？
- ・(意見・質疑なし)
- ・委員長：議長から案件はあるか？
- ・議長：ただいま議論のあった件については、議会活動を停滞せずに機能維持させることが主たる目的として共通認識を図りたい。目的の達成に向けて、状況に応じて災害対策会議等の開催を経て、議会全体としての適正な取組みに努めたいので、御理解を賜りたい。
- ・委員長：事務局から案件はあるか？
- ・事務局長：2点、ご説明したい。1点目は令和4年度の研修計画の叩き台。2点目は北大公共政策大学院との議会活動外部評価に係る連携事業の今後のスケジュールについてである。
- ・委員長：1点目(令和4年度研修計画の叩き台)について、意見・質疑はあるか？
- ・(意見・質疑なし)
- ・総務係長：2点目について説明する。北大公共政策大学院との議会活動外部評価に係る今後の日程について、決定をしていただきたい。現在、北大との間で、議員全

員と事業協力者（議会活動に関して意見交換をした町内関係団体等）を対象にした研究成果の報告会を2月16日（水）の夜を案として調整している。参集数は約40人程度につき、中央公民館での開催を予定している。なお、今後の新型コロナウイルス感染症拡大により、北大の学生が来町不可となった場合は、オンライン開催となる。

- ・委員長：意見・質疑はないか？
- ・（意見・質疑なし）
- ・委員長：他にないか？

以上をもって委員会を閉会する。

傍聴者数	一般者	0名	報道関係者	0名	議員	0名	合計	0名
------	-----	----	-------	----	----	----	----	----

令和4年1月17日

議会運営委員会委員長 中村和宏